

令和5年度 露地ぶどう病害虫防除暦

(「巨峰」「ナガノパール」「シャインマスカット」「クイーンルージュ®」「ピオーネ」)

JAながの 須高フロック

回数 散布時期 散布日 重点防除期間	IRAC FRAC コード	薬剤名	薬剤量	倍率	散布量 (10a当り)	対象病害虫 *太字は重点 病害虫	収穫前 使用 規制	年間 使用 回数	主な作業と注意事項及びドリフト対策
晩腐病・黒とう病の重点防除期間									
1 4月上旬 月 日	— 1	水 展着剤 ㊟ ラビキラー乳剤	100 ℓ 10 ml 500 ml	— 10,000 倍 200 倍	250 ℓ	ブドウトラカミキリ	— 発芽前 (休眠期)	— ※2回以内	・カイガラムシ・クビアカスカシバ防除の為、粗皮削りを徹底する。 ・温暖無風時に死角の出ない様丁寧に散布する。 (りんご園付近の散布は薬害の恐れがあるので特に注意する。)
「シャインマスカット」「クイーンルージュ®」は、黒とう病に弱い為発芽直前の防除を必ず散布する。(苗木にも必ず散布する)									
晩腐病・黒とう病の重点防除期間									
2 発芽直前 (4月中・下旬) 月 日	— M9	水 展着剤 ㊟ デランフロアブル	100 ℓ 10 ml 500 ml	— 10,000 倍 200 倍	250 ℓ	晩腐病 黒とう病 つる割病	— 休眠期 (非発芽期75日前まで)	— 1回 (2回以内)	・重要な防除である為、死角の無い様丁寧に散布する。 特に短梢栽培園・若木・苗木には手散布とし、しっかりと防除する。 ・発芽後の散布は薬害が出るので散布時期を厳守すると共に、隣接園や 発芽品種には絶対に飛散させない。 ・サビダニ・ハモグリダニの発生園では、必ず「石灰硫黄合剤」(20倍 /発芽前/—)を散布する。その場合、5日以上間隔を空けて散布する。 ・黒系品種で晩腐病の発生園では、㊟「デランフロアブル」に替えて、 「ベンレート水和剤」(200倍/休眠期/年間1回以内)を散布する。 ・黒とう病、晩腐病の発生園では展着剤に替えて固着性展着剤「アピオンE」 (500倍/—/—)を加用散布する。
黒とう病 特 別 防 除									
特別防除 展葉2~3枚 月 日	— M1	水 展着剤 キノド一颗粒水和剤	100 ℓ 10 ml 100 g	— 10,000 倍 1,000 倍	250 ℓ	ツマグロアオカシミカメ 黒とう病	— 45 日前まで	— ※4回以内	・昨年、黒とう病発生園では必ず散布する。 ・ツマグロアオカシミカメの発生園及び「シャインマスカット」園では、 展葉2枚頃に㊟「モスピラン顆粒水溶剤」(2,000倍/収穫14日前まで /※年間3回以内)を散布する。但し、マメコバチなどの花粉媒介昆虫 に影響があるので注意する。
カイガラムシの特別防除									
特別防除 5月初旬 月 日	— 4	樹幹塗布 水 アルバリン顆粒水溶剤	1樹当り 40 ml 40 g	— — 1 倍	—	コナカイガラムシ類	— 幼果期まで (但し収穫 29日前まで)	— 1 回	・クワコナカイガラムシの発生園ではこの時期に処理する。 ・散布ではなく、樹幹に塗布する剤です。使用に当たっては留意点が多いので 最寄りの技術員に相談の上使用下さい。
5月上中旬 フィロキセラ対策として、自根樹に「モスピラン粒剤」(1㎡当り30g/収穫14日前まで/※年間3回以内)を主幹周辺に散布する。									
3 展葉6枚頃 月 日	— M1 16	水 展着剤 キノド一颗粒水和剤 アプロードフロアブル	100 ℓ 10 ml 100 g 100 ml	— 10,000 倍 1,000 倍 1,000 倍	250 ℓ	べと病 晩腐病 褐斑病 黒とう病 クロヒメゾウムシ ハマキムシ ヨコバイ類 サルハムシ カイガラムシ類	— 45 日前まで 30 日前まで	— ※4回以内 2 回以内	・カシミカメシの発生園では、「スミチオン水和剤40」(1,000倍/収穫21日 前まで/※年間2回以内)を加用散布する。但し、マメコバチなどの花粉媒 介昆虫に影響があるので注意する。 尚、「スミチオン乳剤」は葉に薬害が心配される為、「スミチオン水和剤 40」を使用する。
4 展葉8~9枚頃 月 日	— M4	水 展着剤 オーソサイド水和剤80	100 ℓ 10 ml 125 g	— 10,000 倍 800 倍	250 ℓ	べと病 晩腐病 褐斑病 黒とう病 クロヒメゾウムシ ハマキムシ ヨコバイ類 サルハムシ	— 30 日前まで	— 3 回以内	・前回散布より10日以上空けないで散布する。 ・コウモリガ防除の為、5月下旬に「ガットサイドS」(1.5倍/幼虫喰入期直前 ~喰入初期 但し収穫21日前まで/※年間2回以内)を地際から30cmの位置 まで塗布する。 ・コウモリガの食入時期なので、ぶどう園及び主幹部の除草など清掃管理 を徹底する。(コウモリガの発生源防止) ・コウモリガの食入を認めた時は、虫孔に「ロビンフッド(エアゾール)」 (—/収穫前日まで/年間5回以内)を噴射、又は針金を差し込み刺殺する。
種無し化处理 (展葉9枚) 月 日	— 25	水 アグレプト液剤	100 ℓ 100 ml	— 1,000 倍	250 ℓ	—	—	1 回	・種無し品種には必ず散布する。 ・花房に十分付着する様に散布する。 ・散布時期が遅れると、無核化効果が劣る場合がある為、 散布遅れがない様に注意する。 ・有核ぶどうには隣接園を含め、絶対散布・飛散させない。
花振るい防止 (展葉9枚頃) 月 日	— 1	水 アプローチBI フラスター液剤	100 ℓ 330 ml 200 ml	— 300 倍 500 倍	150 ℓ	—	— 展葉7~11枚時 (開花始期まで)	— 2 回以内	・単用散布とし、重複散布はしない。 ・「ロザリオピアンコ」には散布しない。(葉に薬害) ・種無し品種に使用する場合は、登録倍率・効果が品種毎に違いがある為、 最寄りの技術員にご確認の上使用下さい。 又、「種無し品種」は、「アプローチBI」などの展着剤を加用しなくても良い。 「種なし巨峰」1,000倍 「ナガノパール」800倍、 「シャインマスカット」1,500倍

回数 散布時期 散布日 重点防除期間	IRAC FRAC コード	薬剤名	薬剤量	倍率	散布量 (10a当り)	対象病害虫 *太字は重点 病害虫	収穫前 使用 規制	年間 使用 回数	主な作業と注意事項及びドリフト対策
灰色かび病・べと病・晩腐病・うどんこ病の重点防除期間									
5 開花直前 (6月初旬) 月 日	— 7 M3 1	水 展着剤 フルーツセイバー ジマンダイセン水和剤 トクチオン水和剤	100 ℓ 10 ml 66 ml 100 g 125 g	— 10,000 倍 1,500 倍 1,000 倍 800 倍	350 ℓ	黒とう病 灰色かび病 べと病 褐斑病 晩腐病 うどんこ病 アザミウマ類 コナカイガラムシ類	— 7 日前まで 45 日前まで 45 日まで	— 3 回以内 ※2回以内 3 回以内	・今回以後、重点防除期間中の散布は時期を遅れない様にする。
灰色かび病・べと病・晩腐病・白腐病・うどんこ病・さび病の重点防除期間									
6 落花直後 (6月中旬) 月 日	13 3 2 M4	水 ㊸ コテツフロアブル トリフミン水和剤 ロブラール水和剤 オーソサイド水和剤80	100 ℓ 50 ml 33 g 66 g 125 g	— 2,000 倍 3,000 倍 1,500 倍 800 倍	350 ℓ	黒とう病 灰色かび病 晩腐病 べと病 白腐病 うどんこ病 褐斑病 チャノキイロアザミウマ ミカンキイロアザミウマ ナミハダニ	— 60 日前まで 7 日前まで 開花期～効果期 (但し、60日前まで) 30 日前まで	2 回以内 3 回以内 3 回以内 3 回以内	<ul style="list-style-type: none"> か多腐・げび・るあく病べ細こ様のの・とかのに。病褐病い汚時た穂害斑を霧染期つ軸防病はををはぶや除・じ日生、り新にさめ中じ果と梢おび晩にや実散先い病腐散すに布端で・病布い葉すの最う・すの害る葉もど黒るでへに重んと。、幼も要こう 庄果十な病病力に分時な・をサか期ど白上 ・キャップが落ちにくい時は、灰色かび病が発生しやすいので散布を早める。 ・6月中旬以降は重要な時期であるので丁寧に散布する。 ・クビアスカシバの発生が多い場合は、㊸「コテツフロアブル」に替えて、㊸「バダシSG水溶剤」(1,500倍/収穫21日前まで/年間5回以内)を散布する。
灰色かび病・べと病・晩腐病・白腐病・さび病の重点防除期間									
7 落花12日後 (6月下旬) 月 日	4 49+M3	水 トランスフォームフロアブル ゾーベックエニベル顆粒水和剤	100 ℓ 50 ml 133 g	— 2,000 倍 750 倍	250 ℓ	べと病 晩腐病 カイガラムシ類 晩腐病・黒とう病発生園では、300～350ℓ散布する。	3 日前まで 45 日前まで	3 回以内 ※2回以内	<ul style="list-style-type: none"> ・「シャインマスカット」でハダニの発生している園では、「ダニコングフロアブル」(2,000倍/収穫前日まで/年間1回以内)を加用散布する。 ・コウモリガの食入を認めた時は、虫孔に「ロビンフード(エアゾール)」(—/収穫前日まで/年間5回以内)を噴射、又は針金を差し込み刺殺する。 ・べと病をはじめ晩腐病・白腐病・褐斑病・さび病・うどんこ病など多くの病害防除において最も重要な時期である。 ・散布時期が遅れたり、散布量が多いと幼果にサビや汚れが生じやすいので小さい噴口に替え、動噴圧を上げ細かい霧状で散布する。 ・雨よけ栽培園では、「ゾーベックエニベル顆粒水和剤」に替えて「エトフィンフロアブル」(1,000倍/収穫7日前まで/年間4回以内)、「オンリーワンフロアブル」(2,000倍/収穫前日まで/年間3回以内)を散布する。
8 前回より10日後 (7月上旬) 月 日	5 40 11	水 ディアナWDG レーバフロアブル アミスター10フロアブル	100 ℓ 10 g 50 ml 100 ml	— 10,000 倍 2,000 倍 1,000 倍	200 ℓ	黒とう病 べと病 褐斑病 晩腐病 灰色かび病 アザミウマ類 ハマキムシ類	前日まで 7 日前まで 30 日前まで	2 回以内 3 回以内 3 回以内	<ul style="list-style-type: none"> ・「ディアナWDG」は、蚕毒が強いので十分に注意する。 ・「アミスター10フロアブル」は、りんご(シナノレッド)に薬害が発生するので、飛散しない様に散布する。 ・散布時期が遅れたり、散布量が多いと幼果にサビや汚れが生じやすいので小さい噴口に替え、動噴圧を上げ細かい霧状で散布する。
特別防除 前回より7日後 (7月中旬) 月 日	3 21	水 オンリーワンフロアブル ランマンフロアブル	100 ℓ 50 ml 50 ml	— 2,000 倍 2,000 倍	200 ℓ	晩腐病・黒とう病発生園では、300～350ℓ散布する。 黒とう病 べと病 晩腐病 さび病 灰色かび病	前日まで 14 日前まで	3 回以内 3 回以内	<ul style="list-style-type: none"> ・汚れや果粉溶脱が生じやすいので、散布には十分注意する。 ・アザミウマ類の発生園では、「アーデントフロアブル」(2,000倍/収穫前日まで/年間4回以内)を加用散布する。 ・「冷蔵用シャインマスカット」は、袋かけ直前に「パレード15フロアブル」(2,000倍/収穫7日前まで/年間2回以内)を特別散布する。
7月下旬 フィロキセラ対策として、自根樹に「モスピラン粒剤」(1㎡当り30g/収穫14日前まで/※年間3回以内)を主幹周辺に散布する。									
9 袋かけ直後 (7月下旬) 月 日	— M2+M1 4 —	水 展着剤 園芸ボルドー アルバリン顆粒水溶剤 クレフノン	100 ℓ 10 ml 200 g 50 g 1 Kg	— 10,000 倍 500 倍 2,000 倍 100 倍	400 ℓ	褐斑病 さび病 晩腐病 黒とう病 コナカイガラムシ類 チャノキイロアザミウマ カメムシ類	— — 前日まで	— — ※3回以内	<ul style="list-style-type: none"> ・葉の裏表、棚上、外周へも死角の無い様十分散布する。 ・ハダニ・サビダニの発生が多い園では、「コロマイト水和剤」(2,000倍/収穫7日前まで/年間2回以内)を加用散布する。 ・クビアスカシバの発生が多い園では、「サムコルフフロアブル10」(5,000倍/収穫前日まで/年間3回以内)を散布する。 ・防鳥対策は遅れない様早めに講ずること。 ・「園芸ボルドー」に替えて「ムッシュボルドーDF」(500倍/—/—)又は、「ICボルドー66D」(40倍/—/—)を散布しても良い。但し「ICボルドー66D」の場合はクレフノンを加用しなくて良い。 ・薬剤の付着を良くするため展着剤に替えて、「K.Kステッカー」(3,000倍/—/—)を加用散布しても良い。その場合、一番最後に混用する。
10 8月上旬 月 日	M1 3	水 ICボルドー66D テルスター水和剤	97.5 ℓ 2.5 Kg 100 g	— 40 倍 1,000 倍	400 ℓ	晩腐病 さび病 べと病 チャノキイロアザミウマ	— — 14 日前まで	— — 1 回	<ul style="list-style-type: none"> ・以後の防除は、「ICボルドー66D」に替えて、「4-4式ボルドー」を散布しても良い。 ・ボルドー液の付着の向上と荷造り時の粉飛び軽減の為、「K.Kステッカー」(3,000倍/—/—)を加用散布すると良い。その場合、一番最後に混用する。 ・雨よけ栽培園、隣接が住宅・りんご園など汚れが心配される園では「ICボルドー66D」に替えて「園芸ボルドー」(500倍/—/—)又は、「ムッシュボルドーDF」(500倍/—/—)を散布しても良い。その場合「クレフノン」(100倍/—/—)を加用する。

回数 散布時期 散布日 重点防除期間	IRAC FRAC コード	薬剤名	薬剤量	倍率	散布量 (10a当り)	対象病害虫 *太字は重点 病害虫	収穫前 使用 規制	年間 使用 回数	主な作業と注意事項及びドリフト対策
11 収穫直前 (8月下旬) 月 日	M1	水 ICボルドー66D	97.5 ℓ 2.5 Kg	 40倍	 400 ℓ	 晩腐病 さび病 べと病	 —	 —	・ボルドー液の付着の向上と荷造り時の粉飛び軽減の為、「KKステッカー」(3,000倍/ー/ー)を加用散布すると良い。その場合、一番最後に混用する。 ・雨よけ栽培園、隣接が住宅・りんご園など汚れが心配される園では「ICボルドー66D」に替えて「園芸ボルドー」(500倍/ー/ー)又は、「ムッシュボルドーDF」(500倍/ー/ー)を散布しても良い。その場合「クレフノン」(100倍/ー/ー)を加用する。 ・スリップス類の発生が多い園では、「エクシレルSE」(5,000倍/収穫前日まで/年間3回以内)を加用散布しても良い。
特別防除 9月上旬 月 日	M1	水 ICボルドー66D	97.5 ℓ 2.5 Kg	 40倍	 400 ℓ	 晩腐病 さび病 べと病	 —	 —	・降雨が多く、べと病の発生が多い園や収穫が遅い園では前回散布後14日後に散布する。

※「ガットサイドS」®「ラビキラー乳剤」は合計2回以内。
 ※®「モスピラン顆粒水溶剤」「モスピラン粒剤」は合計3回以内。
 ※「スミチオン水和剤40」は、収穫終了後から萌芽までは2回以内、萌芽後で2回以内。

※「キノンドー顆粒水和剤」は、開花後は1回。
 ※「ジマンダイセン水和剤」「ゾーベックエニベル顆粒水和剤」は合計2回以内。
 ※「アルバリン顆粒水溶剤」は合計3回以内。但し、塗布は1回以内

----- 薬剤散布の留意事項 -----

1. 濃度を高めたり、散布量が多いとサビ果(葉害)や汚れの原因となるので基準を必ず守ること。
2. 展着剤は開花前と袋掛け後に使用し、それ以外は使用しない。
3. 適期作業と適期防除の励行。
4. 欧州系品種の「シャインマスカット」「クイーンルージュ®」は、黒とう病・べと病等の病害に弱い為、散布ムラの無い様、丁寧な散布に心掛ける。

◎フィロキセラ(ブドウネアブラムシ)発生に注意

1. 自根樹・フィロキセラ発生樹は、新梢の伸びが著しく悪く、樹勢が衰弱する為、必ず「モスピラン粒剤」を主幹周辺に散布する。
(1㎡当り30g、但し6kg以下/10a、収穫14日前まで/年間3回以内)
2. 抵抗性台木への改植を図る。
3. 疑わしき場合は、JA・農業農村支援センター・防除所に連絡する。